

2020年度 東海大学 (2/2)

【 講 評 】

例年通り大問3題で出題され、第1問は小問集合であった。難易度も平年並みであるが、第3問の確率がやや複雑なため、第1問、第2問をなるべく早く正確に解き、第3問にどれだけ多くの時間を割くことができたかがポイントとなる。全体で7割程度の得点をしたい。

【 解 答 】

1 小問集合【標準】

- (1) ア : $-1 + \sqrt{3} \leq a < 1$, (2) イ : $\frac{5 + \sqrt{53}}{2}$, (3) ウ : $\frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{4}$,
 (4) エ : $3(a+b)(b+c)(c+a)$, (5) オ : $n = 890$, (6) カ : $16(2e^4 - 1)$

2 対数関数(数Ⅱ) / 図形と方程式(数Ⅱ) / 積分法(数Ⅱ)【標準】

- (1) ア : $\frac{1 + \sqrt{17}}{2}$, イ : $\frac{17}{12}$, ウ : $-\frac{7}{4}$
 (2) (i) エ : $1 < a < \frac{1 + \sqrt{17}}{2}$, (ii) オ : $1 < b < 3$
 (iii) カ : -2 , キ : 3 , ク : $\frac{17}{24}$, ケ : 17 , コ : $\frac{13}{8}$
 (iv) サ : $1 + \sqrt{3} < k < \frac{33}{8}$, (v) シ : $1 + \sqrt{3} < k$

3 確率(数A)【標準】

- (1) (i) ア : $\frac{1}{9}$, (ii) イ : $\frac{5}{9}$, (2) ウ : $\frac{2^{n-2}}{3^{n-1}}$
 (3) エ : $\frac{(n+1)2^{n-2}}{3^n}$, (4) オ : $\frac{(n+1)2^{n-2} + 1}{3^n}$
 (5) カ : $\frac{2}{3^{n-1}}$, (6) キ : $\frac{n+2}{3^n}$

【 解 説 】

1

(1) $y=2$ のとき $2 = -x^2 + 2ax + 2a \quad \therefore x^2 - 2ax + 2 - 2a = 0$

判別式を D_1 とすると, x が存在するとき

$$\frac{D_1}{4} = a^2 + 2a - 2 \geq 0 \quad \therefore a \leq -1 - \sqrt{3}, a \geq -1 + \sqrt{3} \quad \dots \textcircled{1}$$

また $y=3$ のとき $3 = -x^2 + 2ax + 2a \quad \therefore x^2 - 2ax + 3 - 2a = 0$

判別式を D_2 とすると, x が存在しないとき

$$\frac{D_2}{4} = a^2 + 2a - 3 < 0 \quad \therefore -3 < a < 1 \quad \dots \textcircled{2}$$

$a > 0$ かつ ① かつ ② より $-1 + \sqrt{3} \leq a < 1$

別解 最大値に注目して解くこともできる

$$y = -(x-a)^2 + a^2 + 2a$$

x がすべての実数をとるとき, y の値域は $y \leq a^2 + 2a$

よって条件を満たすのは $-2 \leq a^2 + 2a < 3$

$-2 \leq a^2 + 2a$ より $a^2 + 2a - 2 \geq 0 \quad \therefore a \leq -1 - \sqrt{3}, a \geq -1 + \sqrt{3} \quad \dots \textcircled{1}$

また $a^2 + 2a < 3$ より $a^2 + 2a - 3 < 0 \quad \therefore -3 < a < 1 \quad \dots \textcircled{2}$

$a > 0$ かつ ① かつ ② より $-1 + \sqrt{3} \leq a < 1$

(2) 2円の中心間距離は $\sqrt{(\sqrt{t}-0)^2 + (3-t)^2} = \sqrt{t^2 - 5t + 9}$

2円が外接するとき, 中心間距離が半径の和と等しいから

$$\sqrt{t^2 - 5t + 9} = 1 + 3 = 4$$

両辺を2乗すると $t^2 - 5t + 9 = 16 \quad \therefore t^2 - 5t - 7 = 0$

\sqrt{t} より $t \geq 0$ であるから $t = \frac{5 + \sqrt{53}}{2}$

$$\begin{aligned} (3) \quad \cos^4 \frac{\pi}{24} - \sin^4 \frac{\pi}{24} &= \left(\frac{1 + \cos \frac{\pi}{12}}{2} \right)^2 - \left(\frac{1 - \cos \frac{\pi}{12}}{2} \right)^2 = \cos \frac{\pi}{12} \\ &= \cos \left(\frac{\pi}{3} - \frac{\pi}{4} \right) = \cos \frac{\pi}{3} \cos \frac{\pi}{4} + \sin \frac{\pi}{3} \sin \frac{\pi}{4} \\ &= \frac{1 + \sqrt{3}}{2\sqrt{2}} = \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{4} \end{aligned}$$

別解 $a^2 - b^2$ の形に注目して因数分解してもよい.

$$\cos^4 \frac{\pi}{24} - \sin^4 \frac{\pi}{24} = \left(\cos^2 \frac{\pi}{24} + \sin^2 \frac{\pi}{24} \right) \left(\cos^2 \frac{\pi}{24} - \sin^2 \frac{\pi}{24} \right) = 1 \cdot \cos \frac{\pi}{12}$$

以下, 本解答に同じ.

$$\begin{aligned}
(4) \quad & (a+b+c)^3 - a^3 - b^3 - c^3 = \{a+(b+c)\}^3 - a^3 - (b^3+c^3) \\
& = a^3 + 3(b+c)a^2 + 3(b+c)^2a + (b+c)^3 - a^3 - (b^3+c^3) \\
& = 3(b+c)a^2 + 3(b+c)^2a + (3b^2c + 3bc^2) \\
& = 3(b+c)\{a^2 + (b+c)a + bc\} = 3(b+c)\{(a+b)(a+c)\} \\
& = 3(a+b)(b+c)(c+a)
\end{aligned}$$

(5) $n^3 + 100$ を $n + 10$ で割ると

$$\frac{n^3 + 100}{n + 10} = n^2 - 10n + 100 - \frac{900}{n + 10} \quad \dots\dots\textcircled{1}$$

$n^3 + 100$ が $n + 10$ で割り切れるのは、上の式の右辺が自然数となるときであるから、 $\frac{900}{n + 10}$ が

自然数となる必要がある。これを満たす最大の自然数 n は $n = 890$

このとき $\textcircled{1}$ の右辺は $890^2 - 10 \cdot 890 + 100 - 1 > 0$ となるので自然数である。

(6) $f(x) = \int_0^x x^4 e^{2t} dt = x^4 \int_0^x e^{2t} dt$ とすると

$$f'(x) = 4x^3 \int_0^x e^{2t} dt + x^4 e^{2x} = 4x^3 \left[\frac{e^{2t}}{2} \right]_0^x + x^4 e^{2x} = x^3(xe^{2x} + 2e^{2x} - 2)$$

$$\begin{aligned}
\text{よって} \quad & \lim_{x \rightarrow 2} \frac{1}{x-2} \left(\int_0^x x^4 e^{2t} dt - \int_0^2 16e^{2t} dt \right) = \lim_{x \rightarrow 2} \frac{f(x) - f(2)}{x-2} = f'(2) \\
& = 2^3(2e^{2 \cdot 2} + 2e^{2 \cdot 2} - 2) = 16(2e^4 - 1)
\end{aligned}$$

2

$$(1) \quad -\frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{2}x + 3 = 1 \text{ より } x^2 - x - 4 = 0 \quad \dots\dots\textcircled{1} \quad \therefore x = \frac{1 \pm \sqrt{17}}{2}$$

$$\alpha > \beta \text{ より } \alpha = \frac{1 + \sqrt{17}}{2}$$

$$\text{また } \alpha \text{ は } \textcircled{1} \text{ の解であるから } \alpha^2 - \alpha - 4 = 0$$

$$\text{ここで } \int_1^\alpha \left(-\frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{2}x + 2\right) dx = \left[-\frac{1}{6}x^3 + \frac{1}{4}x^2 + 2x\right]_1^\alpha = -\frac{1}{6}\alpha^3 + \frac{1}{4}\alpha^2 + 2\alpha - \frac{25}{12}$$

これを $\alpha^2 - \alpha - 4$ で割ると、商： $-\frac{1}{6}\alpha + \frac{1}{12}$ 、余り： $\frac{17}{12}\alpha - \frac{7}{4}$ であるから、

$$\int_1^\alpha \left(-\frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{2}x + 2\right) dx = \left(-\frac{1}{6}\alpha + \frac{1}{12}\right)(\alpha^2 - \alpha - 4) + \frac{17}{12}\alpha - \frac{7}{4} = \frac{17}{12}\alpha - \frac{7}{4}$$

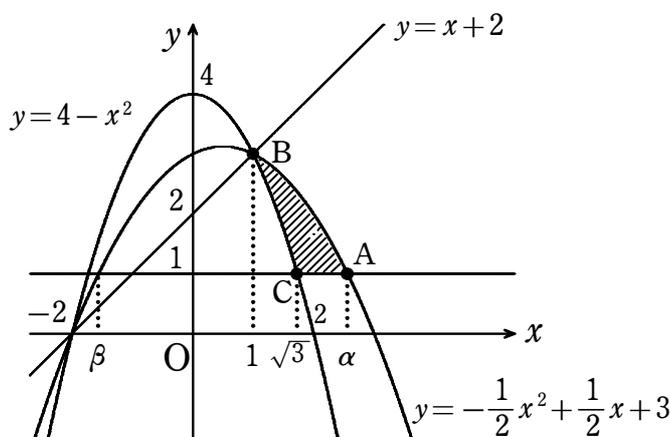
$$(2) \quad \text{対数の真数は正であるから } \begin{cases} x^2 + y - 4 > 0 \\ x - y + 2 > 0 \end{cases} \quad \therefore 4 - x^2 < y < x + 2 \quad \dots\textcircled{2}$$

$$\text{このとき } \begin{cases} \log_y(x^2 + y - 4) < \log_y(x - y + 2) \\ 1 < y \end{cases} \text{ より}$$

$$\begin{cases} x^2 + y - 4 < x - y + 2 \\ 1 < y \end{cases} \quad \therefore \begin{cases} y < -\frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{2}x + 3 \\ 1 < y \end{cases} \quad \dots\textcircled{3}$$

$\textcircled{2}$ 、 $\textcircled{3}$ の共通部分が領域 D であり、これを図示すると下の図の斜線部となる。

ただし、境界線は含まない。



$$(i) \quad \text{図より } 1 < a < \alpha \quad \therefore 1 < a < \frac{1 + \sqrt{17}}{2}$$

$$(ii) \quad \text{図より } 1 < b < 3$$

$$(iii) \quad \text{求める面積を } S \text{ とすると } S = \int_1^\alpha \left(-\frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{2}x + 3 - 1\right) dx - \int_1^{\sqrt{3}} (4 - x^2 - 1) dx$$

(1) の結果を利用すると

$$\begin{aligned} S &= \frac{17}{12}\alpha - \frac{7}{4} - \left[3x - \frac{x^3}{3}\right]_1^{\sqrt{3}} = \frac{17}{12} \cdot \frac{1 + \sqrt{17}}{2} - \frac{7}{4} - \left(3\sqrt{3} - \sqrt{3} - 3 + \frac{1}{3}\right) \\ &= -2\sqrt{3} + \frac{17}{24}\sqrt{17} - \frac{25}{24} + \frac{8}{3} = -2\sqrt{3} + \frac{17}{24}\sqrt{17} + \frac{13}{8} \end{aligned}$$

(iv) 領域 D と直線 $y = -x + k$ ……④ が共有点を持つ k の値の範囲が求めるものである.

$$y = -\frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{2}x + 3 \text{ について } y' = -x + \frac{1}{2}$$

よって点 A における接線の傾きは $-\frac{1}{2}$, 点 B における接線の傾きは $-\frac{\sqrt{17}}{2}$ である.

$$\text{④ が } (\sqrt{3}, 1) \text{ を通るとき } k = 1 + \sqrt{3}$$

④ と $y = -\frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{2}x + 3$ が接するとき

$$-\frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{2}x + 3 = -x + k \quad \therefore x^2 - 3x + 2k - 6 = 0$$

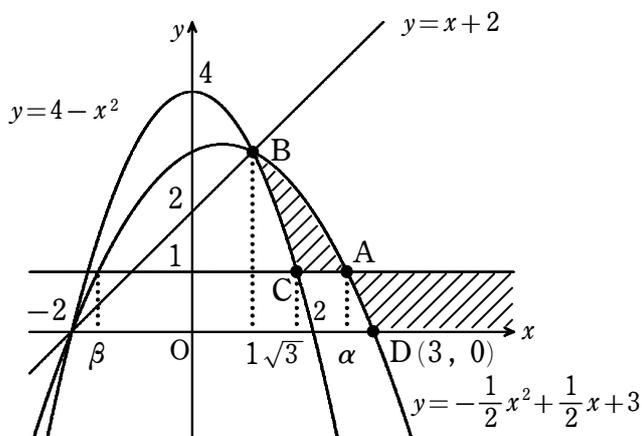
$$\text{判別式を } D_1 \text{ とすると } D_1 = 9 - 8k + 24 = 0 \quad \therefore k = \frac{33}{8}$$

$$\text{以上より } 1 + \sqrt{3} < k < \frac{33}{8}$$

$$(3) \text{ ② が成り立つとき } \begin{cases} \log_y(x^2 + y - 4) < \log_y(x - y + 2) \\ 1 < y \end{cases} \text{ より } \begin{cases} y > -\frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{2}x + 3 \\ 0 < y < 1 \end{cases} \dots\dots\text{④}$$

領域 D' は, ② かつ ③ または ④ の表す領域であるから, 下図の斜線部となる.

ただし, 境界線は含まない.



これと $x + y = k$ ……④ が共有点を持つ k の値の範囲が求めるものである.

$$\text{④ が } C(\sqrt{3}, 1) \text{ を通るとき } k = 1 + \sqrt{3}$$

2点 C, D を通る直線の傾きが $-\frac{1}{3 - \sqrt{3}} = -\frac{3 + \sqrt{3}}{6} > -1$ であることから,

$$\text{求める } k \text{ の値の範囲は } 1 + \sqrt{3} < k$$

3

2人がじゃんけんをするとき、誰がどの手を出すかに注意すると

$$\text{あいこになる確率は } \frac{3}{3^2} = \frac{1}{3}$$

$$\text{勝負が決まる確率は } 1 - \frac{1}{3} = \frac{2}{3}$$

$$\text{特定の1人が勝つ確率は } \frac{1}{2} \cdot \frac{2}{3} = \frac{1}{3}$$

となる。また、 n 番さんは $n-2$ 回の試行の後までは

「1つ左のイスに移動（勝負が決まる）」または「移動しない（あいこ）」

しか起こらない。つまり、 n 番さんが2番のイスに座るのは、最短で $n-2$ 回後であり、 n 番さんがじゃんけんを行うのは、最短で $n-1$ 回目であることに注意する。

以下ではあいこになる事象を A 、勝負が決まる事象を B 、 k 番さんが勝つ事象を W_k 、 k 番さんが負ける事象を L_k と表す。

(1) (i) 1回目に W_1 が起こり、2回目に W_3 が起こるときであるから

$$\frac{1}{3} \times \frac{1}{3} = \frac{1}{9}$$

(ii) (1回目, 2回目) とすると, (W_1, W_1) , (W_1, A) , (W_2, W_3) , (A, W_1) , (A, A)

となるときであるから

$$\frac{1}{3} \times \left(\frac{1}{3} + \frac{1}{3} \right) + \frac{1}{3} \times \frac{1}{3} + \frac{1}{3} \times \left(\frac{1}{3} + \frac{1}{3} \right) = \frac{5}{9}$$

(2) $n-2$ 回目まで B が起こり、 $n-1$ 回目で W_n が起こるときであるから

$$\left(\frac{2}{3} \right)^{n-2} \cdot \frac{1}{3} = \frac{2^{n-2}}{3^{n-1}}$$

(3) n 回の試行を終えたとき、 n 番さんが1番のイスに座っているのは

(2)の後に W_n または A が起こる、または

$n-1$ 回目までに A が1回、 B が $n-2$ 回起こり、 n 回目に W_n が起こる

ときであるから、

$$\frac{2^{n-2}}{3^{n-1}} \cdot \left(\frac{1}{3} + \frac{1}{3} \right) + {}_{n-1}C_1 \left(\frac{2}{3} \right)^{n-2} \cdot \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{3} = \frac{(n+1)2^{n-2}}{3^n}$$

(4) n 回の試行を終えたとき、 n 番さんが n 番のイスに座っているのは、

(2)の状態から n 回目に L_n が起こる、または

B が $n-2$ 回起こった後に L_n が起こり、どこかで A が1回起こる、または

A が n 回 が起こる

ときであるから、

$$\frac{2^{n-2}}{3^{n-1}} \cdot \frac{1}{3} + {}_n C_1 \left(\frac{2}{3} \right)^{n-2} \cdot \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{3} + \left(\frac{1}{3} \right)^n = \frac{(n+1)2^{n-2} + 1}{3^n}$$

別解 場合分けの仕方は様々である.

n 番さんは 2 番のイスに座るまでじゃんけんをすることがないので, 何回後に初めて 2 番のイスに座るかに注目すると

- i) $n-2$ 回後に初めて 2 番のイスに座る
- ii) $n-1$ 回後に初めて 2 番のイスに座る
- iii) 2 番のイスに座ることはない

という場合がある.

i) $n-2$ 回 B が起こり, 残り 2 回は (L_n, A) , (A, L_n) , (W_n, L_n) の 3 通りであるから

$$\left(\frac{2}{3}\right)^{n-2} \cdot \left(\frac{1}{3} \cdot \frac{1}{3} + \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{3} + \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{3}\right) = \frac{3 \cdot 2^{n-2}}{3^n}$$

ii) $n-1$ 回のうち, $n-2$ 回目までに A が 1 回起こり, 残りは B が起こり, 最後に W_n が起こるときであるから

$${}_{n-2}C_1 \left(\frac{1}{3}\right) \left(\frac{2}{3}\right)^{n-2} \cdot \frac{1}{3} = \frac{(n-2) \cdot 2^{n-2}}{3^n}$$

iii) A が n 回起こるときであるから $\left(\frac{1}{3}\right)^n = \frac{1}{3^n}$

i), ii), iii) より求める確率は $\frac{3 \cdot 2^{2n-2} + (n-2) \cdot 2^{2n-2} + 1}{3^n} = \frac{(n+1) \cdot 2^{2n-2} + 1}{3^n}$

(5) A が $n-1$ 回起こるか W_1 が $n-1$ 回起こるときであるから $\left(\frac{1}{3}\right)^{n-1} + \left(\frac{1}{3}\right)^{n-1} = \frac{2}{3^{n-1}}$

(6) n 回の試行を終えたとき, 全ての人が最初と同じイスに座っている確率は

A が n 回起こる

W_1 が $n-1$ 回, A が 1 回起こる

$W_2, W_3, W_4, \dots, W_n, W_1$ が起こる

ときであるから $\left(\frac{1}{3}\right)^n + {}_n C_1 \left(\frac{1}{3}\right)^{n-1} \left(\frac{1}{3}\right) + \left(\frac{1}{3}\right)^n = \frac{n+2}{3^n}$

お問い合わせは ☎ 0120-302-872

<https://keishu-kai.jp/>